こぎん刺し鼻緒の日光下駄

歴史は江戸時代

徳川家康公が祀られている日光東照宮をはじめ
日光の社寺では格式を重んじる風潮が強く
境内参入の作法や服装などにさまざまな決まりがありました

参拝する人は表門で清めの草履に履きかえなければならなく
境内は砂利道や坂が多く、日光は雪も多かった

草履は歩きづらいため下駄に草履を乗せると

この下駄であれば境内参入を許されたことから
「御免下駄」の名がついた

明治以降、御免下駄を実用向きに改良したものが
日光下駄なのだ

職人は減り
現在　全国に５人ほどしかいないという

日本のモノづくりには

昔の人が生活をよくするために考え抜いた
「暮らしの知恵」がたくさん詰まっています

それは私たちの生活を支え
豊かにしてくれるものです

日光下駄は師から弟子へと
技術で受け継がれてきました

習慣や生活スタイルは変化し
時代とともに移り行く

伝統はそのままに、新しい文化を

日本の優れたものづくりを未来に繋ぐため
より多くの方々に知っていただきたい

日光下駄　職人

渡邉　誠友　WATANABE　SEIYU

1983年生まれ
栃木県宇都宮市出身
作新学院高等学校 美術デザイン科卒
2014年4月　日光下駄の世界へ　弟子入り

日光下駄は桐の台木の表面にタケノコの皮で編み込まれた
草履が麻糸を使って手作業で縫い合わされている
吸湿性や保温性に優れ 一年を通じて使い勝手がいいのが特徴

福祉と伝統工芸品

日光下駄 みやび

CWらぼ宇都宮

日光下駄を履いて出かけよう

後継者不足を解消したい
県伝統工芸品「日光下駄 」職人と
障害者の賃金向上、雇用創出を目指す
就労支援事業所の想いが重なる物語

YABUSAME

流鏑馬

疾走する馬上から
的を射る勇壮な姿

SAYA

紗綾

途切れることなく
どこまでも繋がる模様
不断長久を表し
家の繁栄や長寿を祝う

SYUNRAI

春雷

冬の終わりを告げ
春知らせる雷

肌寒さが残る荒天の中
春の雰囲気を感じる

HAKUGIN

白銀

降り積もる厳しい
季節の中にある
結晶の美しさ

KAKARI
FUJI

かかり藤

木から木へ蔓を掛けて
咲き誇るかかり藤

SAYA

海神

鮮やか色で海を守る
神様をイメージ

NOASOBI

野遊

うららかな春の
陽気を楽しめるころ
野山で春を探す

GEKKOU

月光

月の光が暗闇を照らす
光の道しるべ

IROHA

いろは

はじまり

花の鮮やかな色
植物や青空をイメージ

こぎん刺し鼻緒の
日光下駄

KOURA

甲羅

長寿として知られる亀
六角形の甲羅は吉兆を
示す縁起の良い形

ARARE

霰

雨滴が地上近くで
固まりばらばらと散る
霰をイメージ

MINORI

実り

植物の実がなる姿や
苦労し良い結果として
実を結んでいくように
願いをこめて

CWらぼ宇都宮
宇都宮市二荒町8-1　渡清ビル 3
TEL　028-678-8244
FAX　028-678-8245
cwl-utsunomiya@maverick-s.com

ご注文フォームはこちらから

日光下駄 みやび
栃木県宇都宮市今泉町448-1
TEL　028-623-1470